

AI・AGI時代の医療を先制する — 大規模言語モデルとAIエージェントが拓く未来



東京科学大学情報理工学院 教授

岡崎 直観 *Naoaki Okazaki*

座長
川上 智史

人工知能（AI）の急速な進歩により、医療は大きな転換点を迎えています。画像診断や疾患予測などの個別領域で活用されてきた AI は、近年の大規模言語モデル（LLM）の登場によって、専門知識を統合し複雑な問題を推論できる汎用的な知能へと発展しつつあります。さらに、推論型モデルや AI エージェントの実現により、AI は単に質問に答える存在から、自律的に情報を収集し、複数の手順を組み合わせて課題を遂行する存在へと進化しています。

本講演では、講演者が開発に携わる日本語大規模言語モデル「Swallow」の事例を交えながら、なぜ現在の AI が高い能力を獲得できるようになったのか、その技術的背景と最新の研究動向を分かりやすく解説します。また、推論型モデルや AI エージェントがもたらす変化を概観するとともに、AGI（汎用人工知能）の実現可能性と、その先にある医療の姿について考察します。

AI は診断支援や創薬だけでなく、電子カルテ、ゲノム情報、ウェアラブルデバイスなど多様なデータを統合し、一人ひとりに最適化された予防医療や先制医療を支える基盤となることが期待されています。一方で、AI が医療現場に深く浸透する時代において、患者の価値観を理解し、不安に寄り添い、倫理的な判断を行うといった人間ならではの役割はますます重要になります。

AI・AGI 時代の到来を見据えながら、医療はどのように変わるのか、そして医師にはどのような新たな役割が求められるのか。本講演では、技術と人間性の融合という観点から、未来の医療のあり方について参加者の皆様とともに考えます。

略歴

東京科学大学（旧・東京工業大学、改称）情報理工学院 教授
2007年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。博士（情報理工学）。東京大学大学院情報理工学系研究科・特任研究員、東北大学大学院情報科学研究科准教授を経て、2017年8月より現職。自然言語処理の研究に従事。人工知能学会理事、言語処理学会理事、日本ディープラーニング協会（JDLA）理事などを歴任。平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞、第15回船井学術賞、2016年度マイクロソフト情報学研究賞などを受賞。

所属団体等

言語処理学会、人工知能学会、情報処理学会、
Association for Computational Linguistics (ACL)

肩書等

東京科学大学情報理工学院 教授
産業技術総合研究所 招へい研究員
国立情報学研究所 客員教授